慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	The rural exodus in Germany : Geneve, 1933
Sub Title	
Author	寺尾, 琢磨
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1934
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.28, No.9 (1934. 9) ,p.1405(87)- 1415(97)
JaLC DOI	10.14991/001.19340901-0087
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19340901-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

The rural exodus in Germany——Geneve, 1933

, 尾 琢 廳

相對的減少は、凡ゆる高度資本主義國に共通と言つてよく、我國も素より之が除外例を爲すものではない。 **諮國に於ては普遍的現象であるが、我國に於ては未だ以て明瞭に觀取される程度には到らない。反之、農村人口の** 近時の人口統計に現はれる二ケの顯著な事實は、出生率の減退と農村人口の衰退とである。出生率の減退は歐米

代と雖も素より望ましい事である。然るに今日行はれる離村は、決して斯かる意識を以て爲されるものでなく、單 権利といへやう。一國の經濟的文化的水準が各職業各地方を通じて出來る限り平均することは、分業に立脚する現 の飛躍的發展は、或る程度の勞働力を農村からの供給に俟つのは當然且つ必要であるが、これが為には適當な統制 しめ、農村と都會の孰れに對しても不利なる影響を及ぼす場合が多いのである。乃ち都會に於ける低出生率と工業 に個人的判斷に基いて行はれるから、一方には農村の勞働力を過度に減退せしめ、他方都會のそれを法外に膨脹せ 一種の平衡運動と見て差支へない。居住及職業の自由を享有する時代に、人が不利を棄て、有利に赴くのは當然の 離村は畢竟農村と都會との間、又は農業と商工業との間に横はる有利性の相違に刺戟されて起るもので、これを

The rural exodus in Germany-----Geneve, 1923

八七 二四〇五

八八

の注意を喚起しついある狀態である。 行はれねばならね。國民經濟の中に占める農業の地位が時と共に減退するのは經濟發展の當然の結果であるとは へ、その重要性は素より否定す可らざる所である。英國の如き極端な工業國に於てすら、農村の荒廢は常に識者

選擇した理由は(一)ボムメルン州は純農業地で離村の事實が顯著であり(二)ザクセン州は大工業地で農村人口を吸 直ちにその實行に着手した。決議に従つて研究法はモノグラフに據るべく、その最初の目的地として獨逸が選ばれ **牧し、従つて州内の農村人口が特に住所を變更せずしてその職業を變更するからであり、(三)ザクセン自由國は農** た。調査地域はプロイセン國のポムメルン及びザクセンの二州、及びザクセン自由國に限定された。斯かる地方を る事となり、獨逸政府の合意を得て一九三一年五月 F. W. von Bülow 及び H. Bökerの雨氏が實際の調査を行つ べき必要を認め、その具體的研究法を決定した。この決議は一九三〇年十二月のジュネーブの大會に於て採用され、 村地方の家内工業の特殊狀態を調査するに便なりと認められたからである。 一九二九年羅馬に開催された國際勞働局と國際農業研究所の混合委員會は兩者の協力によつてこの問題を考究す

次の五章に分ち、更に之に参考統計表が約十頁に亘つて添加されてゐる。 此處に紹介せんとする表記の著作「獨逸に於ける農民の離村」はこの調査の報告書である。本文百二十七頁、

一、農民離村の性質

二、調査地に於ける農業生産の自然的經濟的狀態

三、離村の範圍、構成及び方向

四、離村の原用

五、離村防止手段

ければならない。 於ける離村と全く同一なるを以てゞある。即ち問題は、 存在を强張する。農村に於ける單なる職業の變化-の限度を超えて行はれ、從て有害な結果を持つからである。茲に於て論者は必ずしも移住の形態を採らざる離村の ての點から望ましいもので、斯かる離村は此處に言ふ意味の離村ではない。離村が問題とされるのは、それが一定 め、同時に都會は出生率低く勞働機會は多いから當然農村からの勞働供給を必要とする。從で或る程度の離村は總 とならない。そして農業に於ける耕作技術の進步は、農村に於ける高出生率と相俟て、當然勞動の機會を減少せし に一聯の有害な影響を與へるところの一種の移住である」と定義される。有害な影響を與へざる離村は素より問題 一章に於ては先ず離村の定義が與へられる。一般に離村は「先す農業地域及び農業に、延いて田舎の全經濟組織 -農業より商工業への轉化 農村人口對都會人口ではなく、農業人口對商工業人口でな -も亦、結果に於て本來の意味に

ど、離村の旺盛となるであらう事は理論的に想像しうる所で、實際の調査も亦これを證明してゐるのである。 農場の大さ、小作條件、 第二章は離村の行はれる地方の自然的經濟的狀態の調査を略述したもので、風土、市場關係、 は是等事項に關する若干の統計が與へられてゐる。 家畜、機械、勞働(婦人勞働、外國勞働者等)等に亘つてゐる。斯かる條件が劣れば劣るほ 土地利用法、收穫、

著及出發の記錄(三)勞働市場の狀態これである。前述の如く、 主として次の三つの統計から間接的に推定しうるのみである。即ち(一)人口、職業及經營に関する國勢調査(二)到 構成及方嚮は、主として統計的報告である。併し離村の統計的調査は直接には行ふを得ず、 離村は必ずしも人口の都市集中と同一義でなく、

The rural exodus in Germany-Geneve, 1933

ならぬ。論者は先ず最近五十年間の全獨逸の增加人口二千五百餘萬人が都會と農村との間に如何に分配されたかを なる職業の轉向をも含むが故に、 都會人口對農村人口の比較に加ふるに、商工人口對農業人口の比較をも行はねば

十萬		Ii. 于		人口
45	萬	F	Ŧ	口
鬥	萬一	1	1	
以		,	V (干以
	-1.		7.	N
Ŀ	一十萬	萬	五千	少 下
T.	净	120		r
	- 1		열양	
	41.5			•
	3.00			
	1			
	18.42			
	독성			
5 5				i ya e
			3	•
				- 111
	- 1			•
	- 1			
	1.5			
\mathcal{T}_{i}				
7.		DU	4	
.I I.	•	•	u	\sim
UU .	七		八	JL.
五五。四%	一。七%	四。二%	八%	少北%

に東プロシャに於て見れば、一九一〇年より一九三〇年迄の間に、農村人口は絕對的減少を示し(二%)との地方の と農村の分類に就て、本誌四月號參照)、この分類に従へば增加人口の九十九%は都會に吸收された事になる。 人口の都市集中の甚だしきを認められる。 獨逸統計に於ては一般に人口二千を以て都會と農村の分岐點としてゐる。この分類の當否は別として(拙稿、都會

から三〇・五%に低下した。 次に職業人口の變化を見るに、農業人口の他の職業人口に對する比は、一八八二年から一九二五年の間に四二•二

當時は軍需工業に於ける勞働需要は鄰村を刺戟した事情があるが、他方都市に於ける食物の不足はこれを抑制する て微弱な増加を示したに過ぎない。その原因は出生率の減少と離村とにある。尤も大戰當時は離村は中絕した。 上記調査地域に就ても、一九〇〇年より一九二五年の期間に農業人口は減少し、農村人口は極

傾きがあり、加之離村を行ひ易い青年階級は大部分軍事に徴集されてゐたからである。然るに戦後國情の安定する 増加を示したものが翌年は一萬五千、次年は四萬三千の絕對的減少を來してゐる。 三〇年には五萬、一九三一年には八萬三千を減少するに至つた。及ベルリン市に就て見ても一九二九年には六萬の と共に離村は再び旺盛となり一九二九年頂點に達した。然るに一九二九年の世界恐慌は離村運動にも直接の影響を らも窺へるのであつて、プロシャの大都市の人口は一九二九年迄は毎年五萬乃至十萬の增加を示したものが、一九 一九三〇年には五分一前後に減少し、一九三一年には歸農者の方が多くなつた。この事は都市人口の消長か

農村に深刻なる不況を招來せしめてゐた際であるから、一層農業勞働者の失業を助長し、農村の經濟狀態を一層惡 化せしめたのである。 斯かる農村人口の急激な膨脹が農村荒廢の憂慮を一掃したかと言へば、寧ろ反對であつた。蓋し世界恐慌は既に

雕村者の年齢別、性別、 配偶別、 目的地等に闘する記蔵は何れも數字的で、暗示に富むが、 紙敷の膨脹を恐れて

民階級の社會的地位、土地制度、工業活動の發展、交通機關等の相違により、所により時によつて相違が起る。 的要素に歸してゐる。 る條件の不平等に在る。條件の不平等は一は經濟的であり、 第四章は離村の原因を取扱ふ。この真の原因は言ふ迄もなく農村と都會-少くとも調査地域全體を通じて、 そして各種原因は何處に於ても同一ではあるが、唯だその各々の輕重は農業發展の歷史、 何れも有力に作用するもの」みである。 一は心理的である。論者は雕村の大分部の原因を經濟 -或ひは農業と商工業-

農業勞働者が敢へて農業を放棄する最大の原因は、賃銀の劣惡なるにある。調査によれば一九二八年農業勞働者

業労働者の收入の甚だしく劣る事を證明しでゐる。 生計費の嵩む事情があるから、單に名目質銀のみの比較では不充分であるが、各種の調査の結果は、實質的にも農 銀合計が八〇一九〇ペニヒに過ぎぬに對し、 の賃銀の可成りの部分は實物を以て給與されるから、支出に於ける自由が甚だしく制限される。勿論都會勞働者は −四五ペニヒ、女二〇─二五ペニヒ、十六歳の少年二〇ペニヒ即ち夫婦と小供の賃 同一地方の石工は一人で八六ペニヒを受けてゐる。加之、農業勞働者

概して都會の不熟練勞働は農村出の青年を歡迎する事情を述べてゐる。 論者は農業勞働者の離村方向が夫婦者にあつては附近の中小都市、獨身者にあつては大都市なるを指摘した後、

僕を含む)の過半は强請保險から除外されてゐる。失業保險以外にも、例へば傷害保險の如き、 に不利なのである。 次で離村の一原因として失業救済が都會勞働者に厚く農村勞働者に進い事情が擧げられる。農村の賃銀勞働者(婢 明かに農村勞働者

蒙る過大の損失が離村の有力な原因となることは、ステチンの職業紹介所の報告の示すところである。單に獨逸に 為に多くの勞働者は妻の代理として、自らの負擔に於て Hofgange と呼ばれる下級勞働者を提出する。これが為に の調査によれば、右に費される妻の勞働時間はザクセン自由國に於ては年千七百時間を超える。この苦痛を免れる 傭主の要求に應じて妻をして傭主の家庭内の仕事を手助けせしめる義務を負ふ場合が非常に多い。農業勞働者協會 獨逸に於て特に離村を促す一原因は、廣く農業地方に行はれる Hofganger 制度である。獨逸には屈傭農業者は 農業勞働者の將來に對する見込みは何處に於ても甚だしく制限され、これが特に青少年の離村を刺戟しつ」ある。 何處に於ても農業に於ける婦人勞働の條件の劣惡なるは共通的事實であつて、從て男子に比して經濟的

便箋製造工場が農業に於ける賃銀よりも低い賃銀で夥しい女工を農村から吸收しつくある事實を述べてゐる。 の必要のより少い娘達の間に離村の傾向の大きいのは當然なのである。ザクセン州の農業會議所の報告は、

業勞働者の入國數は次の如くである。 村の結果として流入し來つたものであるが、後には却つてその原因となるに至つた。政府もこれに氣づき、 度を、一九三一年には割當制度を設け、 低廉な外國農業勞働者の流入は當然離村の原因となる。彼等は最初は離村に基く勞働者の不足を補ふ為に即ち離 一九三二年以後は禁止政策を採るに至つたのである。最近數年間の外國農

一九三八年 一九二八年 一九二八年 一九二八年

一九三一年

#O,000

する外國勞働者によつて農業勞働の不足を補ひうる可能性は、疑ひもなく農業に於ける雇傭條件の改善を遅からし 顧傭の影響は將來も長く殘るであらう」と。 を自國勞働者に押つけることは出來ないからである。外國勞働者は今日に於ては旣に禁止されてゐるが、併しその 遠を益々大ならしめた。斯くて自國勞働者の雇傭に復歸することは困難となつた。蓋し外國勞働者の甘受する條件 めた。時の經過と共に、外國人雇傭の齎す利益は不利益と轉化し、勞働問題を激化し、 論者は斯かる外國勞働者の流入を重大視するものゝ如く、次の如く述べてゐる。「低廉な賃銀と劣惡な條件を甘受 都會と農村の勞働條件の相

最後に離村の原因として都會の魅力が擧げられてゐる。併し論者はこの力は他の原因に比して甚だ微弱だと斷言

般に亘つて筆者はもつと心理的要素を重要視すべきではなかつたと考へてゐる。論者自ら、組織や制度の上に缺陷 をいかに矯正しても、農業や農村に對する一般の偏見が直ちに一掃されるとは思はれない、と言つてゐる。 不合理だと言ふのである。併し都會の魅力が單に經濟的要素のみから成るかどうかは疑問の餘地があらう。本書金 する。都會の魅力は、論者に從へば、畢竟經濟的要因の綜合的觀念に過ぎず、特にこれを一原因として擧げるのは

ければならぬ。戰後獨逸國家はこの目的の爲に次の諸方策を採用した。 離村の最大原因が農業の相對的不利性に在る以上、對策の中心は必然農業をしてより有利なる職業たらしめるにな 第五章、離村坊止策。離村の原因が複雑多岐に亘る以上、これが對策も亦當然多種に亘らざるを得ない。そして

- 一、より有利な自然的經濟的條件の下に生産しついある諸外國の競爭を制限する。
- 二、生産費の低減を計る。
- 三、市場及び信用組織を改良する。
- 四、職業教育、相談所等を發達せしめる。

二、沼澤地不毛地の回收、三、二十五ヘクタル以上の大農場の先買權の取得、四、百ヘクタル以上の大農場の回收 目的の貫徹に努力めた。必要な土地を獲得するには普通の手段によつて土地を購入する以外に一、國有地の拂下げ、 與へんとするものである。早晩自ら土地所有者たりうるとの希望は離村妨止の最上策であらう。本論文はこの方策 が採用された。これは大農場を細分し、これによつて産額を増加し、同一面積を以てより多くの人々に衣食の途を に就て記述するところ極めて詳細である。事質獨逸政府は一九一九年以來これに關する數次の法令を發布し、極力 そしてその具體的方策としては負債整理、貧瘦地開拓、等があるが、特に有効な手段としてセットルメントの設定

kredite) 及び長期貸付 (Siedlungsdauerkredite) に俟つ。一九三〇年迄の十二年間にこの目的の為に獲得された土地 又は不熟練な勞働者に委譲すること等を禁止した。セットルメントに要する資金は短期貸付(Siedlungszwischen-は次表の如くである。 の手段によつた。そして成功を確保する補助手段として、 例へば斯かる土地を投機に使用する事、細分すること、

,	ш	1-4 'J-	`}-	i ija	1-4 √:	e u u	. j
1930	1929.	1928	1926	1925	1924	1922 1923	1919-21年
							- 21
							亲
				•			•
:				•	:		
· ·				:	•		
127.112	117.115	:		;	:		115.737~クタル
127	117.	78 468	44.678	30.956	33.183	56.102	115.
112	115	468	378	956	83	511	737
				i.e.			No.
							Σ ζ

ルメント數は四萬八千を超えてゐる。 との七十五萬ヘクタルの内、既に實際セットルメントに利用された部分は約五十萬ヘクタルで、設定されたセッ

獨逸に於て重大な問題をなす人口減退の對策として可成りの成績を擧げつゝあるが如くである。 ットルメントが雕村妨止に有効なるは認めねばならぬが、セットルメントの意義は單にこれに留まらず、現に この種のセトルメ

The rural exodus in Germany—— 'ieneve, 1933

九五 (一四一三)

ントに於ける出生率の高き事は戰前より既に認められてゐる。

ぎることや、居住者の負擔の過大なることは改善の餘地があるといふのである。 併し論者はセットルメントの効果につき若干の疑問を挾むものゝ如くである。例へば過小セット ルメントが多過

はしめること、外國勞働者の入國を制限すること等が實行されてゐる。 農業勞働を専門とする勞働紹介所を設けること、徒弟給與法(Anlernezuschüsse) によつて都會の失業者を農村に向 る為に農業教育を盛ならしめること、都會勞働と農村勞働者の間に横はる失業保險の差別的取扱ひを除去すること、 如上の積極的妨策に對して、種々な消極的政策が行はれる。第一に農業そのものに對する興味と信頼を起さしめ

Verein für ländliche Wohlfahrts- und Heimatspflege なる協會が如上の文化的使命を遂行する爲に活動しつゝあ 的普及でなければならない。更に國民一般が農業及び農村を理解する事が 必 要 で ある。獨逸に於ては Deutscher 部人士のみが高度の教養を與へられゝば、彼等は寧ろ都會に引つけられるからである。即ち必要なのは教育の一般 ばれてゐる。農村の敎育は、若し全般的に高められない場合には、却つて離村を刺戟する恐れがある。蓋し單に一 農村生活全體に於ける地方的要素の保持(各地方の傳統、習俗等の尊重)等に亘つてゐる。 る。その活動の分野は一、農村に於ける經濟的社會的條件の改善 更に農村生活の一般條件を向上せしめる為に、農村の交通、衛生設備の改善、住宅の改良、特に教育の普及が叫 二、健康增進 三、知的社會的生活の向上 四、

フレーションの時代には著しく減少したが、通貨安定と共に再燃して世界恐慌の直前には戰前のレベルに到達した。 恐慌は確かに之に對する反動を生ぜしめ、 論者は如上の觀察に對して次の如き結論を下してゐる。前世紀末以來旺盛となつた離村の現象は、戰時及びイン 都會生活の多數敗慘者を田舍に放逐するに至つた。併しこれは素より一

kolonie)の如きは、喧噪な都會生活に對する反動の現れと認められるが、この種の自然に憧れる感情は都會生活者 の各層に漸次普及せんとしてゐる。故に他方に於て有効な歸農運動が行はれるならば、將來は必ずしも悲觀すべき 農運動には、經濟的原因以外に心理的原因の在ることは注目に値する。大都市の郊外に發達した 市民農園(Lauben-時的現象と見るべく、従つて景氣恢復後は再び離村の運動を再生せしめるであらう。乍併、最近の獨逸に於ける歸